

平成 20 年度 2 年生保護者アンケート調査報告書

第 5 回（平成 19, 20 年度）教育システム改善のためのアンケート調査報告書追加分

平成 20 年 9 月

有明工業高等専門学校
学校運営検討委員会

6月に提出した「第5回（平成19,20年度）教育システム改善のためのアンケート調査報告書」の3.6 2年生保護者アンケートにおいては、平成18・19年度実施分を分析報告した。
ここでは、平成20年度9月に実施した2年生保護者アンケートの分析を報告する。

対象者数、回答者数、回答率については、次の通りである。

	実施時期	対象者数	回答者数	回答率
平成18年度2年生保護者	2006年7月	207名	176名	85%
平成19年度2年生保護者	2007年8月	215名	167名	78%
平成20年度2年生保護者	2008年9月	224名	197名	88%

【お子様の所属学科】について

回答者は全体で197名であり、この値は2年生の全体224名の88%にあたる。学科別にみると、物質工学科が100%（43名全員回答）と高く、電子情報工学科は80%（50名中40名回答）で最も低い回答である。

【寮生・通学生の別】について

【所属学科】での回答数は197名であったが、当設問に対する回答数は196名である。その内訳は、『自宅通学生』が143名（73%）、『寮生』が50名（26%）である。『寮生』の割合は平成18年度38名（22%）、平成19年度34名（20%）に比べ多くなっている。

各学科の『寮生』の割合は、建築学科が50%（38名中19名）と半数を占め、他学科は20%前後である。その割合は、建築学科では平成18年度42%、平成19年度31%と常に高く、機械工学科では平成19年度が36%とその年度では最も高かったが、平成20年度（22%）は平成18年度（23%）とほぼ等しい値であった。電気工学科は毎年低い値で推移しているが（14%、11%、15%）、電子情報工学科（18%、16%、21%）・物質学科（14%、6%、21%）、そして建築学科を含め4学科では平成20年度の値は最も高くなっている。

【（通学生の保護者のみ）お子様の通学方法】について

複数回答可であるため、回答数184は『自宅通学生』と回答した143名よりも多い。内訳は、『徒歩』が4名（3%）、『公共交通機関』が67名（47%）、『自転車』が51名（36%）、『バイク』が50名（35%）、『自家用車送迎』が12名（8%）であった。

『自家用送迎』を除く他の通学方法の割合は、年度別にみても大体類似した値を示しており、『徒歩』は3%前後、『公共交通機関』は45%前後、『自転車』は30%前後、『バイク』が35%前後である。『自家用送迎』は平成18年度・19年度の2名から平成20年度は12名に増えている。その内8名は物質工学科であり、それは当科の25%を占める。

【（通学生の保護者のみ）通学方法についてどのように思われますか】について

今回から記述式のみに変更、24名からご意見等が寄せられた。それらの多くは、登下校時のバスの便数が少ないことへの不満[9件]、スクールバス運行の要望[4件]、バイク通学の制限緩和の要望（距離の緩和、排気量の緩和）[5件]である。また、バス乗車のマナーの悪さを懸念する意見[2件]、電車とバスの乗り継ぎの悪さの指摘、登下校時の不安（遠い通学距離、遅い下校）[2件]、本校前の坂道の拡幅の要望、等があった。

このようなご意見等は毎年寄せられている。対応しなければいけない問題の有無を含めた議論を行って、その結果を高専通信等で保護者の方に伝えることが求められる。

【（寮生の保護者のみ）寮生活についてどのように思われますか】について

今回から記述式のみに変更、14名からご意見等が寄せられた。それらの中で最も多い意見は、おいしい食事の提供の希望[3件]、充実した寮生活が送られていることに対する感謝[3件]、であった。その他として、人気のある夕食の提供数の増加、寮における伝統に対する不満、長期休暇中における補習時期明示の遅さによる残食できなかったことへの不満、等がある。また、昨年度の要望への対応に対する感謝もあった。

食事の中身については毎年意見が寄せられている。食事は人間形成において最も大切なことであることは周知の事実であり、寮における食事については食堂業者を含めて議論すべきであり、対応できること、対応できない理由等、議論したことを保護者の方に伝えることが必要であろう。

【有明高専に入学させて】について

当設問に対する回答数は193名であり、【所属学科】での回答数197名よりも少ない。

『非常によかった』は68名（35%）、『よかった』は104名（54%）、『やや後悔』は19名（10%）、『後悔している』は2名（1%）である。『非常によかった』と『よかった』を合わせた値は89%と高く、保護者の方が肯定的に捉えていると判断される。しかし、この値は平成18年度の93%、平成19年度の91%よりは若干低い。

また、『やや後悔』が平成18年度の7%、平成19年度の9%よりもわずかではあるが増えており、そして、過去2年間該当者がいなかった『後悔している』が2名おられる。

学科別にみると『非常によかった』『よかった』は、最も低い電子情報工学科でも83%であり、高い値と判断されるが、当科のこの値は平成18年度の92%、平成19年度の90%よりも低くなっている。逆に、否定的な回答である『やや後悔』は18%と他学科に比べて高い（機械工学科9%、電気工学科11%、物質工学科5%、建築学科8%）。『後悔している』との回答は電気工学科と建築学科それぞれ1名ずつである。

記述式には50名からの理由があり、多くが『非常によかった』『よかった』に関わる肯定的なものである。最も多いのは、楽しい生活、充実した生活をおくっている[15件]であり、その他、自主性や自立心、向上心の萌芽[8件]、充実した専門教育に対する満足感[6件]、良好な友達関係の構築[3件]、自由な校風[3件]、教員の熱心な指導、等が挙げられている。

一方、『やや後悔』に関する理由として、勉強・学習面での不安（学力低下、勉強を怠る、ついていけない）[7件]が多く、その他、生活面での不満（身だしなみ、校則の緩さ）[2件]、長い夏休み、通学に時間を要することがある。『後悔』に関する理由として、2名のうち1名は「勉強しない子には合わないと思います」との意見であった。

9割の保護者の方が肯定的にみている反面、1割がそうでないという状況は毎年続いており、似たような意見が寄せられている。意見の解決には、学生本人で解決しなければならないこともあり、それへの手助けが求められる場合もあるだろう。また、生活面に関しては全校的に取組まなければならない問題である。保護者全員に入学させてよかったと思われるような学校にするための実行が求められる。

【有明高専の学習指導のあり方】について

当設問に対する回答数は187名であり、【所属学科】での回答数197名よりも少ない。

『満足』は68名（36%）、『おおむね満足』は102名（55%）、『やや不満』は17名（9%）であり、『満足』と『おおむね満足』を合わせた値は91%と高く、学習指導のあり方が保護者の方に肯定的に捉えられていると判断される。なお、それぞれの項目の値は、平成18年度・19年度における値とほぼ等しい（平成18年度31%、56%、9%、平成19年度35%、56%、10%）。

学科別にみると『満足』と『おおむね満足』を合わせた値は、最も低い建築学科でも86%と高い。一方、『やや不満』は電気工学科・電子情報工学科・建築学科にそれぞれ5名ずつおられ、機械工学科と物質工学科の1名に対して多い。

記述式には19名からの意見が寄せられた。『満足』『おおむね満足』の理由の中にはそのことを示しているものは少ない。『おおむね満足』だけど、厳しい指導、資料等でのわかりやすい説明[2件]、補習の時間の増加、留年数を減らす方策、等の様々な要望が潜んでいることが窺われる。

これらの内容は『やや不満』の理由の中にもみられる。それらは、厳しい指導[2件]、学習面でのサポート[3件]、留年・退学を減らす方策、等である。

記述式から、基本的には『おおむね満足』はしているものの、もっとしっかりやってほしいという要望を多くの方が抱えていることが読み取れる。したがって、アンケートの数値に満足せずに、記述式で記された内容に関わることをはじめとして一層の改善が求められる。

【有明高専の学生への生活指導】について

平成20年度のこの設問への回答数189のうち、『満足』『おおむね満足』を合わせた回答は5学科全体で159（84%）であり、平成18・19年度の90%・87%から減少している。逆に、『やや不満』『不満である』を合わせた回答は増加しているわけであるが、学科別では、電気工学科21%、電子情報工学科20%であり、機械工学科の6%に比べると高い割合である。とくに、電子情報工学科では今回『不満である』の回答が2（5%）あった。

記述された内容は25件であり、よくしてもらっている等の肯定的意見が4件以外は、もっと厳しく指導してもらいたい、校則を守っていない、服装・制服・髪型等が乱れている等の指摘がほとんどであった。中には、「服装等をもっと厳しくしてほしい。せっかく入学時に制服も一式揃えたのに、女子のベストや夏服のブラウスは一度も着用しない。」、「『高校生らしい服装・髪型』どうにかならぬでしょうか？変に化粧までしているの、ケバいです。評判が良くないです。」という意見もあった。

【制服】について

この設問は、今回、記述式のみでの回答形式にし、78名の方が記述されていた。その中で、制服は不要・いらぬとの内容は6件（8%）であり、大半は、「あった方が良い」、「いいと思う」、「賛成です」等、制服着用について肯定的な意見であった。ただし、上記の生活指導にもあったように、着こなしが乱れている、きちんと着用するように指導してほしい等の意見が7件（9%）寄せられている。

第1回有明高専教育研究フォーラムでも議論されたが、この件に関しては、早急な検討が必要である。

【お子様の部活動のあり方】について

回答数 172 の中で、『所属していない』の回答は 26 (15%) であり、『満足』『おおむね満足』を合わせた回答は 131 (76%)、『やや不満』『不満である』を合わせた回答が 15 (9%) であった。

記述された意見 17 件では、指導者がいない・もっと力を入れてほしい等が 5 件、方針が見えない、試合の近くに試験があるのが気になる、寮生の立場を考えて計画を立ててもらいたい、熱中症に気を配ってほしい、活動内容が知りたい・わからない等、学校として部活動の指導体制を検討しなければならないものが含まれている。

【体育祭・高専祭のあり方】について

今回は昨年度の体育祭に限定して設問した。回答数 176 の中で、『見たことがない』の回答は 8 (5%) であり、『満足』『おおむね満足』を合わせた回答は 165 (94%)、『やや不満』『不満である』を合わせた回答が 11 (6%) であった。

記述された意見 27 件では、とてもよかった、楽しかった等肯定的なものが 18 件であった反面、駐車場を確保してほしい[4 件]、休暇中の練習日程は寮生の立場を考慮してほしい[3 件]、子供がリーダーからの指導に落ち込んでいた等が回答されていた。これらは学校として対応を検討し、結果をフィードバックする必要があるものである。

【有明高専のホームページ】について

前回の分析で、『見たことがない』の回答の中にはホームページを見ることができる環境がないことが原因かもしれないとのことで、今回、選択肢に、『見ることができる環境がない』を設定した。

回答数 186 の中で、『見ることができる環境がない』の回答は 5 (3%) であり、『よく見ている』『ときどき見ている』を合わせた回答は 81 (44%)、『あまり見ていない』『見たことがない』の回答が 54・45 (29%・24%) であった。

記述された意見 10 件は、最近アップが遅い[4 件]、分かりにくい・見にくい[2 件]、もっと学校生活が分かるようにしてほしい[2 件]等、改善を要するものがほとんどであった。

前回も述べたが、今後、より多くの保護者に認知されるような広報活動および保護者にとっても有益な内容づくりに心掛けることが必要である。

【保護者と学校との連携】について

回答数 176 の中で、『満足』『おおむね満足』を合わせた回答は 140 (80%)、『やや不満』『不満である』を合わせた回答が 36 (20%) であった。

記述された意見 17 件では、良くしていただいている等の肯定的なものが少数はあるが、学校・担任と保護者が接する機会が少ない、学校での生活が分からない等が半数以上を占めている。兄弟が通う高校からはメールで連絡が来るのでよい、との意見もあった。

これらの結果は前回とほぼ同じである。したがって、前回も述べたが、保護者からの信頼感の強化のためにも、学校・担任・顧問教員から保護者への連絡を適切に行うことが不可欠であるとともに、保護者と学校との連携を密にする方策を検討する必要もあると感じられる。

【自由意見】

今回、設問に「その他、意見があればお書きください（たとえば、混合学級、授業参観、後援会など）」のように、内容の例示を加えた。記述された意見は 37 件であった。その中で、授業参観を実施してほしいが 13 件、混合学級は交友関係が広がるのでよいが 7 件（否定的意見は 0 件）、今後ともよろしく願います等が 8 件あった。

その他の意見としては、学校との連携を求めるもの[7 件]（学校の様子が分からない、学級通信が欲しい、保護者が意見を言える機会が欲しい等）、不況の折進路指導をよろしく願いたい、先生と学生の言葉遣いに問題がある、盗難対策の方法を考えてほしい、2年次の3者面談はどうかと思う、寮での学習時間のチェックをしてほしい、等があった。

前設問の保護者と学校との連携とも関係するが、連携の強化を望む意見が多い。授業参観は是非実現に向けて検討しなければならないと思われる。また、既に前の設問で意見を記述したために敢えてここでは記述されなかったと思われる意見（学生指導の強化等）もあると感じられるので、前の設問で記述された意見も含めて、学校として真剣に検討・改善を行う必要がある。